



Spider-Man : Homecoming

(米、134分、7月13日公開)

あらすじ

18世紀の英国、若くして良人を亡くした美しいSusan Vernon「The First Avenger: Civil War」で初お目見えしたSpider-ManことPeter Parker (Tom Holland)はニューヨークの叔母May(Marisa Tomei)の元に戻り学校生活も再開する。スーパーヒーローとしての大活躍を望む Peterを、Iron-Man としてもAvengerを束ねるTony Stark(Robert Downey Jr.)はゆっくりゆっくり育もうと試みる。その指導に反し、人助けしたくて街へ出動したSpider-Manは、正に犯罪に手を染めるVulture (Michael Keaton)と出くわし…。



あれ、スパイダーマンの中身って、幼い頃に両親を失った孤児の高校生で、己の正体と拒絶、過ちと責任、孤独に苛められてたんじゃないの?とちらっと思ひ数分。まあ、今時の高校生はこなのかもね、演出も軽妙洒脱で面白いから、細かいことは見逃して楽しもうと考え直し、観始めると、長丁場のはずがお仕舞いまで飽きさせない。

主人公役の俳優も軽すぎず重すぎないPeterを上手に表現し、脇の名俳優たちも存在感と演技力で付かず離れず主役を支え、どうせ知ってるお話の展開だなと安心しきって観ていたら、途中の大どんでん返しに、そう来るかっ!と膝を打ってしまう。それは何かをココで話すのは野暮そのものなので、ご自身でお確かめあれ。夏場に、涼しい映画館での娯楽にはもってこいの1本です。

と、今回はここまで。次回作もお楽しみに。

